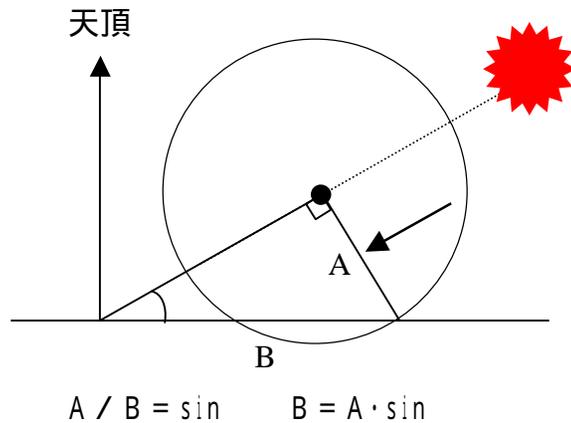
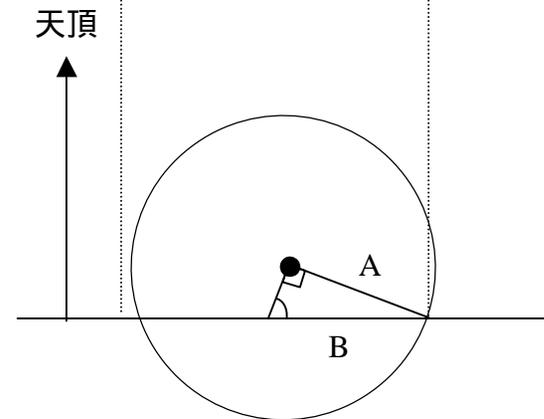
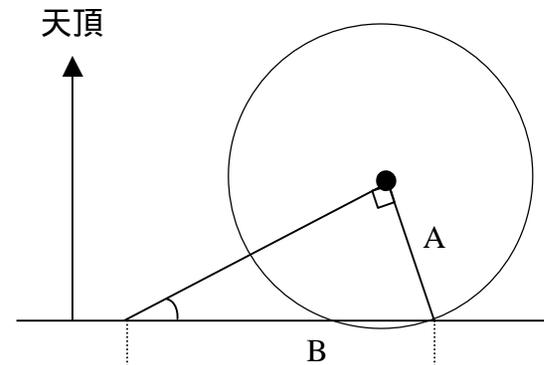


「夏の日ざしが強いわけ」之図(仮)



は太陽の高度角, Aは太陽光線に直角な平面, Bも平面として考える
 平面Aが受け取る放射量をI aとすると, この平面全体の放射量はA x I a
 これがBという平面に広がるわけだから, 平面Bでの放射量をI bとすると,
 $A \times I a = B \times I b$ という関係が成り立つ
 ということは, $B = A \cdot \sin$ より, $I b = I a \cdot \sin$ となる
 平面Aが受け取る放射量が常に一定ならば, Bの面積が狭ければ狭いほど一
 定面積当たりの放射量は大きくなるはず
 すなわち, の角度が大きい 太陽がより高い位置にあればあるほど地面が
 受け取る放射量は多くなる だから夏は暑いわけなんでしょうな。
 ちなみに, が90° (春分, 秋分時の赤道直下での南中時)だと \sin
 = 1となるので, 「もろそのまんま」というわけです。
 懐中電灯を斜めから照らすのと真上から照らすのでは, 後者の方が明るいとい
 うのと同じことですかね



高度角 が大きくなると
Bの長さが短くなる